

絃ちゃんの独り言

趣味と継続と健康

尾形絃 光 (添田町)



私の趣味は、詩吟、漢詩作り、ハーモニカ演奏、ウオーキングである。

詩吟は習い始めて約25年、師範の免状を取得するまでになった。漢詩作りは約5年、頭の体操のつもりで続けている。ハーモニカは3年弱、ある程度の曲は吹ける様になり今ではハーモニカ演奏技術の中でも大変難しいといわれている分散和音の練習をしている。ウオーキングは60才までのジョギングを含めて45年になる。

継続は力なり(何事も続けることである程度の成果を得られるものであり、諦めずに取り組める事も自身の能力といえる)。

詩吟やハーモニカは、機会あるごとに舞台上に立ち吟じたり演奏している。舞台に立つ前のあの緊張感がなんともいえない良い心持ちである。

今回のコロナでは殆どの大会や催しが中止になり残念ですが、逆に日常の練習はしつかり出来ている感が有る。

70才も半ばになりいつまでこの趣味を続けられるかわからないが、健康寿命を少しでも長く保つために続けていきたい。



漢詩大会 曲水の宴



吟詠大会



秋のお彼岸法要のレポート



日時 九月二十七日〜二十八日
講師 瓜生 崇先生 (滋賀県 玄照寺住職)

今回は「大無量寿経」のお話しをします。皆さん願いはありますか？

健康で和やかに生活できたらいいとか、子供が大きくなってとか、病気が治るようにというような願いは持っていますね。しかしそれが本当の願いか。このために生まれて死んでゆくような願いかというと、そうでない。その時、その時の一時的な願いにすぎないので

お釈迦様は何の為に生まれ、年を取り、死ぬのかわからないとおっしゃった。気づいたら生まれて、そのうちに死んでゆく。私たちははそれでは生きられないから、生きる理由を見つければいい。自分の生きる価値をみつけようとする。しかし一日一日、



自分の人生を失ってゆく人生しか生きれない。私たちは生きることを正当化しようとするけど、お釈迦様はそこを真っ直ぐに見られる。お釈迦様は一生懸命生きる方がいいことだとは言わない。

一生懸命生きていく事が出来なくなる時が必ず来る。世の中の為にならなくなる時が必ず来る。いのちは大事で生きることが尊いとは、お釈迦様は言わない。真実に目覚めよと言われる。



本当の願いを求めようとして、最後にわかったのがお釈迦様が35歳の時、さとりを開かれた時。私たちはいろいろ掲げ抱えて失う、そのことがわかったと。一生懸命生きてても、お前の人生これでもいいのかと問うている者が

自分の中にある。本当は何もわかってない、真っ暗な自分がある。そのことを説いているのが「大無量寿経」。これが真実のお経だと親鸞聖人はおっしゃる。

お説教、法話とは知っている人が知らない人に伝えるものと思っていないか。そうでなく聴く人と話す人の共同作業で、共に仏の願いを聞くのが法話。



あれだけ勉強したけど何もないと気づいたのが親鸞聖人。本当の私は誰にも通じ合えない。無明。一番手に負えないのは自分。迷ったままで悟りの世界に気づいた。それが「大無量寿経」です。

老いの日々

念信寺前坊守 村上悦美 (1933年生まれ)



清しさを何に例へん例へ得ず 朝の霊山微動だにせず

何をしにこの世に來しか拭き終へし 堂縁に掛け蜻蛉みてゐる

斯くも愛注がれてありいとし子を 見つむ両親光耀の中

(生後一ヶ月の赤ちゃんと仏参あり)

介護受く身にも葛藤ともすれば 介護する声少し大きく

好きだから「心の時代」とスポーツを テレビが誘ふ日曜番組

老いたりな諸行無常を身に受けて 朝風呂入りデイケアに行く

積みなの法名授かる老いの日々の 腕念珠して指輪はずせり



今年もはや十一月となりました。秋になった途端の空の色、対山の一本一本の木まで間近に見えるようで驚きました。水も澄むはずです。

寄る年波、さすがに生活の仕方が、一日の過ごし方が随分変わってきました。感ずることが俳句ではなく、短歌となつて口をつきます。

まったくの素人ですので、近くに教えて下さる先生を探して居ります。もし心当たりがございましたら教えて下さい。

